

ひろば 大代

平成四2、1  
大代公民館

PTA合同研修会

|| 所感 ||

大代中学校長 今田善行



「二十一世紀を切り拓く人間性豊かな子どもの育成」を大会主題に掲げ、第二七回大代地区幼・小・中PTA研修会が、大代公民館の御支援を受けて去る1月一九日(日)に有意義に開催された。

今年度は、幼・小・中の公開授業を中心に会場を移動しながら参観し、午後は公民館で「ふれあい―我が一生―」と題されて中村ブレイス社長中村俊郎先生の講演を拝聴した。

思えば、昭和四十年から始まったであろうこの研修会も、数えて二七回。その間、いろいろな問題を提起し、大代地区の子育てに大きく貢献してきたことであろう。

私自身はこの研修会に前後六回かかわったが、今、手元にある昭和五十七年度からの資料をひもといて研修会の歴史

史の一端をかいまみてみよう。

平成元年度までは、それぞれ分科会を持ち、家庭教育の在り方を中心に、学習・しつけ・あいさつ等の基本的生活習慣等にかかわる諸問題を話し合いまた同和教育・性教育についても真剣な討議がなされてきた。

講演について一覽してみよう。

昭58年 人となれ

波北彰真先生

昭59年 愛詩・愛景・愛語

渡辺誠弥先生

昭60年 くらしと人権

窪田亨信先生

昭61年 今、親に求められているもの

西本俊司先生

昭62年 子育てに思う

岩田茂一先生

昭63年 映画「風のあるベじお」

親が育つ子が育つ

平元年 相山一善先生

平2年 家庭における性教育

桑本定朋先生

平3年 差別は生きている

橋本智子先生

平4年 ふれあい―わが一生―

中村俊郎先生

児童、生徒数が激減し、今や大代中学校の在立さえ、統合問題に揺れ動く昨今ではあるが、この研修会の成果が目には見えないが大代の子を「心と心の響き合う」豊かでたくましい子に成長させていると確信している。

PTA研修会の成功を喜ぶと共に、二七回という歴史の重みをひしひしと感じたことである。



我が第二の故郷大阪

―三十年雑感― 都市交流

柿田出身 大阪市 中本 弘

“好きやねん、大阪”

大阪へ来て、今年で満三十年になる。警察官となったのは、昭和三十七年四月であるので今年が記念の年である。

七月一日には永年勤続で警察本部長から表彰を受ける一員となる。

三十年節目の年、私は警察官になって良かったと思う反面、二十一世紀の大阪府警、好きやねん、大阪の治安の維持のため自分はどうあるべきか、大きな責任を痛感する。

先ずどうあるべきか、その一つは後

継者の育成である。私はこの二十一世紀までには大阪府警を退職することは間違いない事実である。

三十年間私が体験、諸先輩から教わった事、又は本を読んで心を動かされたこと等を通じて、毎日の後輩に教育いわゆる「後姿の教育」をしてゆきたい。それが恩返しではなからうか。

一方この仕事を通じて私には、三つの大きなチャンスがあった。

その一つは警察と言う実力の社会、それが自分の性格に合った事、「努力こそ道は開ける」を体験した。

次に狭い乍らも我が家、日本一狭い大阪で城を築く事が出来た。

最後に良い理解者、妻と子供二人、長男は自分が経済その他の事情であきらめた大学へ行かせ、同志社大学の学生勉強好きである。長女は既に結婚し二人の孫まである。や、若いおじいちゃんになった事である。

人間努力すれば神は其の人を放置しない。真剣に生きる努力、姿勢が必ずやチャンスを選んでくれる。実感である。

第二のふるさと大阪の前に、第一の

古里大代町がある。第一の古里は「過疎と闘っている」と察します。

ある新聞のコラムにふるさとへの思い入れは、遠く離れた人より残る人の方が、はるかに強いとの記事を読んだことがあります。

第二のふるさと大阪と同じように心のふるさと大家、少しでもお手伝いを出来ないか。其の一步、関西高山会の発足であると心に強く刻んでいます。

「好きやねん大阪、

好きやねん大代。」

大代町高齢者

会長

福祉をすすめる会 永井吉一

私達の代町も高齢化率が33%になっている状況の中で大代町高齢者福祉をすすめる会が発足し、我々は日常生活の中で助け合い乍らやすらぎとうるおいの里づくりを目指しておるところであります。

今年度事業の一つとして「福祉弁当」を七十才以上の独居老人を対象にしてお届けすることが福祉委員会で決まり、その第一回給食を一月十九日

(日)に実施致しました。これは予め希望を取りまとめた結果、今回は二十二個でした。弁当作りは、飯谷、山田八反田、上市の各婦人会のボランティアによってお願いしました。又配食については各関係自治会長の手数を煩わし、当日の五時迄には大体お届けすることが出来た次第であります。

お弁当は味とい、美しさとい、立派なもので受けられた方々より温かくておいしい夕食が頂けたと喜んで下さいました。

弁当の包紙は福祉弁当としご案内に併せ健康留意と一言書き添え更に季節の梅の花をデザインするという気配りもしてみました。次は二月二十三日(日)を予定しておりますのでお待ち下さい町内の皆様も給食についてのご意見があれば寄せて下さいませ。

参考迄に今回の献立を紹介しておきましょう。ばら寿司、煮しめ、白和えさば照焼、だし巻き、漬物、バナナで頂き本当に皆様方のお陰で素晴らしい福祉弁当をお届け出来た事を共に喜ぶ事でございます。どうぞ給食に限らず



関係事業につきましても今後共一層のご理解とご協力をお願い致しまして第一回の福祉弁当についてご報告致して次回の弁当作りに励みたいと思っております。

### 出合いにおける愛の五か条

大代公民館



人間の一生は出合いによって運命づけられていく。

一、好きな人が出来たら、まず相手をよく理解すること。(知る知恵)

二、相手が分かったら、ひたすら信じること。(信じる知恵)

三、大きく愛を育てるために、信じながら待つこと。(待つ知恵)

四、相手を理解し、信じながら待つこともなお、実らない場合あきらめること。(あきらめる知恵)

五、人間は弱いから、あきらめようと努めながらも恨みが残る。しかし許す心が育たなければ本当の愛とはいえない。(許す知恵)

以上、五つの愛の哲学は、平凡なようであるが、大切な出合いの条件のようと思われる。

### 親子読書 (二)

〓絵本や物語りを通して人間らしい心を広く、深く、豊かな情感を育てて行くのが親子読書のねらいです〓

お母さんが話してくれたお伽話、読んでくれた絵本、子供にとって、お母さんの愛を一ぱいに感じ取って幸せなひとときとなることでしょう。

一日の内で十分〓十五分でよいのです。繰り返し繰り返し、根気よく読み聞かせる事も大切で、リズムをつけたり、お母さんの巧みな演出も、関心を持たせる秘訣ともなります。

二〓三才児と言え、知能の働きが特に進む時、子供の成長には欠かせない、家庭教育にとつては最も効果的である大切な時と言われます。

可愛い動物や、登場する人物、物語りの中から様々な出合いに子供らしい感動や判断を自然と身につけ、自らの性格となしてゆきます。

こうして本好きな子供にもなり、いじめに加わったり非行に走る様なこと

### 2月少年健全育成指標

よその子にも やさしさと酷しさを

は先づ考えられない事でしょう。

非行に走る子、それはお母さんの気持ちが良いと伝わっていない事だと言えます。

お話しや絵本の嫌いな子供はいない筈です。お父さんも時々読み手になって上げて下さい。

かけがえのないわが子に夢をかけてみませんか！(研修会から抜粋)

《お母さんのお話しは子供の心の中でかすかに鳴り響く金の鈴です》

童話作家 椋 鳩十

おしらせ

2月11日 高齢者と子供 午後1時

葉加工品作り教室

2月24日 親子読書講演会 午前9時

講師 川合 芝尾悦子先生

◆公民館より

大阪市 中本 弘様

金一封の御寄付を頂きました。厚く御礼申し上げます。

◆社協大代支部より

椿 高崎 脩様

香典返しに替えて金一封の御厚志を頂きました。厚く御礼申し上げます。



# 特色ある公民館活動シリーズ

## 都市とふる里を結ぶ交流会

大田市立大代公民館

大江高山（八〇八m）の麓の町大代町は、大田市の中心地より西南端二十五キロの場所にあつて、大田市では最も離れている僻地の町である。

町の人口は七九三人、世帯二八四。特に高齢化現象が進み、現在六十五才以上の人口比率は三十三％で、市内第一の町である。また、若者は都会へと流出する現実。

公民館として如何に生きるべきかを考えた末、ふる里と都市を結ぶ交流会を、今から五年前に計画した。

人間にとって、生まれるところは選ぶことができない。いやしくもそこに生まれた限りは、そこを大事にするという事。これが私たちの過疎の町づくりの大きな基礎になると考えた。すなわち生まれた家がふる里だ。そして生まれ育ったところがふる里だ。ふる里と呼べる町づくりは、生まれた家に誇りを持ち、そして育った土地に親しみをもち続けるよう働きかけていくこと。

大代に生まれ、大代に育ち、早くから青雲の志を抱き、

都会地に生活を求めた人々。生まれ故郷を懐しみ、いとしく思う人たちが東京に百五十九名在中している。この人たちがこれも六年前、東京石見高山会という会を結成。心のきずなをしっかりと結んでいる。

その人たちをふる里に温かく迎える関係こそ、人間として美徳といえる。また未来を開く大代町の活力と希望の灯となる。都市とふる里を結ぶ交流会も地元で六年間継続してきた。ふる里に帰省した人たちのために、毎年八月十五日、この日のためのイベントが企画され、町を挙げての催しとなっている。



田植ばやし

早朝から行われる大代夏の陣ソフトボール大会、愛護少年団・保存会による田植ばやしや高山神楽団少年部の演舞、さらにはふる里発見の情報交換座談会などを通して、豊かな心のきずなを深めている。夜になると、青



高 山 神 楽

る里をますます愛する出会いとなっている。

情報化社会といわれる今日、公民館では六人の編集委員により館報「ひろば大代」を毎月一回、郷土史などを三か月に一回定期的に発行している。これまで休みなく十二年と四か月情報を発信してきた。

情報提供として

一つめは、読者、つまり町民に学習しようとする内容そのものの記事を載せていくこと。

二つめは、読者、つまり学習者（町民）を学習行動に結びつけていく記事を載せていくこと。

三つめは、その他、町であった出来事や感想、また、これからの行事・お知らせなどを記事にしていく。

この館報「ひろば大代」は、各家庭はもちろん、ふる里を離れ各都市に働く人たちにも情報を提供、長期にわたり学びあい教えあう社会を継続してきた。

懐しいふる里の便りには、各都市から返信もしきり。都市との交流は郷土愛へと発展している。各都市の人たちよりこれまで寄せられた物心両面の支援は町の潤いとなっている。また、郷土出身者が勤務している千葉県の学校と大代小学校は作品の交換交流をしている。子供たちも都市とのふる里交流に参加し、学び合う世界を作っている。

ふる里から東京石見高山総会へ、毎年二十名近くの人たちが親善・親睦をかねて出席している。温かい歓迎の中、年齢差を越えての談笑。ふる里を共有する喜びを味わっている。帰路は、観光をかねて色々な地方の見聞を深めることもこの交流の良さといえる。

### ◎ 都市よりの手紙

前略、三十余年前にこのグラウンドで鍛えられた思い出と、目前に繰り広げられる中学生総動員の田植ばやし、小学生の高山神楽、ここしか食べられないおどろの味の品々、五臓六腑に染み渡り、体育館の熱気の中に一体となりました。故郷を離れた私たちは大代に育った誇りを……。